

岩手県花巻市に行った。目指したのは、マルカンビル大食堂だった。無事に目的を果たした。さて、どうするか。花巻といえば宮沢賢治である。久しぶりに行ってみるか。ということで、宮沢賢治記念館に向かうことにした。

駐車場に着いた。あれっ。前来たときとは印象が違った。前といっても、もう20年も昔のことである。記念館と山猫軒というレストランがあるのだが、自分の記憶の中の位置関係とは違っていた。これほどまでに記憶とは曖昧なものなのか。おかげで、新鮮な気持ちで記念館へと歩を進めることができた。

中に入った。この施設の展示内容を見た記憶が全くない。確かに来ているはずなのだが、これはどうしたことか。まあいいか。順路に従って見ていった。宮沢賢治に関しては、以前、研究というほどのレベルではないが、勉強したことがあった。賢治の生涯や主な作品についてである。知れば知るほど、さらに知りたくなる人物である。そして、作品は、やはりむずかしい。難解である。読むのがむずかしいのではなく、読み解くのが困難なのである。例えば『やまなし』である。「クラムボンはわらったよ。」よくわからない。いったい、作者は何を言おうとしているのか。何を伝えたいのか。そのメッセージを受け取るのが容易ではない。そこがまた魅力でもある。

展示を見終えるタイミングで、何年か前に展示内容がリニューアルされたことを知った。道理で見た記憶がないわけである。

続けて、山猫軒へと移動した。お土産コーナーとレストランが入った建物である。『注文の多い料理店』をモチーフにしてある。お店の入り口には、「注文の多い料理店 山猫軒」とある。至る所に、原作のフレーズが出てくる。「どなたもどうかお入りください。決してご遠慮はありません。」

「ことに肥ったお方や若い方は大歓迎いたします。」「當軒は注文の多い料理店ですからどうかそこはご承知ください。」「注文はずみぶん多いでせうがどうか一々こらへて下さい」などである。

「来訪者ノート」を見つけた。観光施設などによく置いてある。いつもは興味を示さないのだが、この日は違った。珍しく、中を開いてみた。ここを訪れた方のメッセージがある。どうしたことか、書いてみる気になった。人生初の来訪者ノートへの記入である。久しぶりに鉛筆を握った。

福島より秋田、盛岡を経由して、この地に来ました。何年ぶりかもわからぬほどで、初めて記念館を訪れたような気にさせられます。たぶん、まだ小さな子を連れていたために、意識を集中させることができなかったのでしょう。

昔、賢治のことを勉強した時期がありましたが、もはやその記憶は確かではなくなりました。改めて賢治のことを知ったような思いです。イーハトーブ、これは永遠に賢治とともに生き続けるものです。

きっと、賢治が書いた手書きの原稿用紙などを見ているうちに、自分にも書けそうな気がしてきたのだろう。書き始めたら、思ったよりは書けた。また、何年かしたら賢治に会いに来てみたい。